◆効果の見える治水事業「シバ谷川砂防えん堤における取り組み」

災害を知らない次の世代のために～堤銘板設置式と防災教室～

高知県防災砂防課
課長　桜井（さくらい）　亘（わたる）

＜シバ谷川砂防えん堤の概要＞

シバ谷川は、高知市より西方約33km、吾川郡仁淀川町岩丸に位置し、一級河川仁淀川の支川となる土居川の支渓です。仁淀川町は、平成17年8月1日に吾川郡池川町、吾川村と高岡郡仁淀村の三町村が合併して誕生した新しい町で、本渓流は旧池川町中心部である土居地区の対岸に位置しています。

本渓流直下流には岩丸住宅団地など人家密集地域があり、また、近隣に特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの災害時要援護者施設があることから、土砂災害が発生すれば、民生に多大な被害を与えるおそれがありました。そのため、これら人家や施設を保全することを目的に、平成15年度に事業を着手し、平成18年度に堤長45．0m、堤高12．0mの砂防えん堤が完成しました。

＜過去の災害を忘れないために＞

仁淀川町(旧池川町)では、昭和50年に台風による豪雨で日雨量704mm、最大時間雨量98mmを観測し、同町狩山日浦地区では土石流によりほぼ全ての家屋が一瞬のうちに土砂に呑み込まれるなど未曾有の大災害が発生しました。また、町内を流れる土居川も増水により水位が上がり、町内の中心部に濁流が流れ込む被害も発生しました。この災害による同町の被害は、死者1名、全壊家屋38戸、半壊家屋29戸、床上浸水99戸となっています。

この大災害も発生からすでに30年以上が経ち、地域から災害の記憶が薄れつつあります。そのため、大きな災害を経験していない子供たちに、自分たちの町で「昔、何が起こったのか」、また、土砂災害に関する知識について知ってもらうために「堤銘板設置式と防災教室」を実施しました。

＜堤銘板設置式と防災教室＞

平成19年3月14日、仁淀川町立池川小学校3年生の児童と、校長先生や担任の先生を迎えて、「シバ谷川砂防ダム堤銘板設置式」を開催しました。堤銘板の設置式に先立って行った「防災教室」では、シバ谷川砂防えん堤の大きさやそのはたらきについて説明を行い、また、過去の災害事例として「昭和50年災害」やこれらの土砂災害に備えるために「土砂災害の前ぶれ」や「避難の仕方」などについて学習してもらいました。その後に、完成したシバ谷川砂防えん堤と、設置した堤銘板を見学し、堤銘板が設置された場所では、「この字は僕が書いたんだよ！」と自分が書いた字を指さし喜ぶ姿も見られました。約1時間程度の時間でしたが、子供たちにも地域を守る砂防事業の重要性を伝えることができました。

災害を知らない次の世代にかつて経験した災害から得た「知識」や「教訓」を引き継いでいくために、学習の場を提供することが、これからの地域を守る次の担い手を育てることにつながっていくと考えています。

砂防えん堤完成状況（下流から）

子供たちが書いてくれた堤銘板

最後に、用地を提供してくださった地権者の皆さまをはじめ、本事業の実施にあたりご協力いただいた地域の方々や工事関係者の方々に感謝するとともに、今回、堤銘板設置式に参加してくれた池川小学校3年生（当時）をはじめとする地域の子供たちの明るい笑顔がいつまでも続くことを願っています。

四国・水こぼれ話談話室
～美しいふるさとを残していくために～

仁淀川町長
藤﨑（ふじさき）　富士登（ふじと）

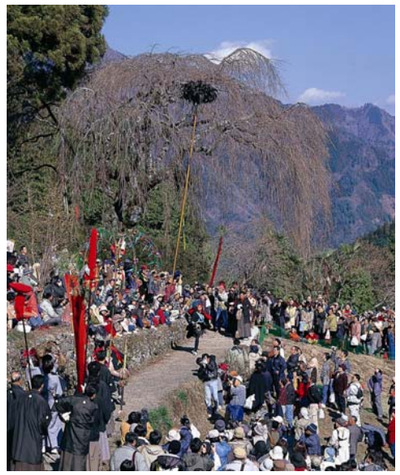
高知県仁淀川町は、県都高知市から北西に約45km、高知市と松山市を結ぶ国道33号の中間点に位置する中山間地で、平成17年8月に地理的・歴史的にもつながりの深い3町村（旧吾川村・池川町・仁淀村）が合併して誕生した町です。

北に四国の霊峰石鎚山系の筒上・手箱山といった1，800m級の山々を擁し、東西に清流仁淀川が流れる豊かな緑と水に恵まれた美しい山里です。

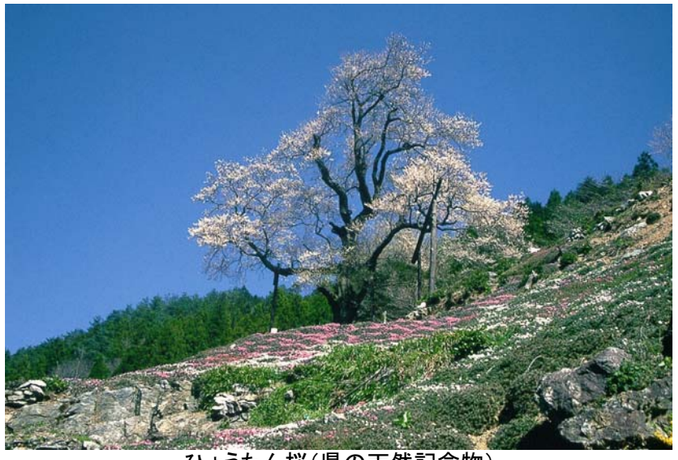
産業は、町面積の89．4%を占める山林を活かした林業が主幹産業で、建材や木工品も多く生産されています。また、平均気温が15℃前後で降水量は2，500mmに達する温暖多雨な気候条件に合った製茶業が盛んで、県下一の茶産地としても知られています。見どころも多く、春には樹齢500年のひょうたん桜や200年を数えるしだれ桜が咲きほこり、夏には清流仁淀川でのキャンプや清流祭り・茶(さ)霧(ぎり)湖(こ)祭りといった夏祭りで賑わい、秋には安居渓谷・中津渓谷・岩屋川渓谷などの自然美を彩る紅葉が見事です。他にも土佐の3大祭りの一つとして知られる秋葉祭りや400年の歴史を持つ池川神楽・安居神楽・名野川磐門神楽などの伝統文化も受け継がれています。

しかし、このような山紫水明の静かな山里にも自然の傷跡は多く残っています。県下でも有数の多雨地帯である上に急峻な地形が災いし、梅雨時や台風シーズンには災害が後を絶ちません。中でも昭和50年8月に襲来した台風5号は最大時間雨量98mm、最大日雨量704mmという猛威をふるい、死者・行方不明者各1人・被災総額46億円にものぼる甚大な被害を被りました。

また、近年では手入れの行き届いていない荒廃した山林が土砂を流出させ災害を引き起こす原因ともなっており、災害の危険性が高くなるほど「砂防事業」の重要さを強く感じています。このような人為的な防災や災害復旧の手段としての「砂防事業」を今後も推進していくとともに、自然のダムとしての山林の役割が十分に果たせるように我々も力を尽くしながら、美しいふるさとを守っていかなければと思っています。



秋葉祭り（県指定無形民俗文化財）



ひょうたん桜（県の天然記念物）

池川神楽(国の重要無形民俗文化財)